

日齢	放鳥後	日付	曜日	BW (g)	備考
67	1	8月26日	日	900	<p>かなり体重が下がって(エサが濡れて食べにくかった可能性もある)心配ではあるが食欲はあるため放鳥とする。</p> <p>8:30 現地にケージを置く。</p> <p>10:22 ケージオープン。すぐに歩いて出てくる。 少し周辺をノタノタ歩き、貝殻を啄みはぐはぐして、放鳥者に近づいてくる。 放鳥者がしゃがむと驚いて飛び立つ。琵琶湖に着水。 すぐ湖面を北に向かって少し飛ぶ。</p> <p>10:32 ヨシ原から少し飛んだ様子</p> <p>10:34 放鳥場所すぐそばの茂みで水浴びをするような音。</p> <p>10:36 水浴びしているところを発見。茂みに入っていく。</p> <p>10:52 放鳥場所に戻ってくる。上陸。</p> <p>10:54 念入りに羽繕い</p> <p>11:39 しゃがみ込んで寝る(観察場所から4m程の位置)</p> <p>11:51 サイクリングに人が通ったのを首を伸ばしてみる</p> <p>11:55 近づいてくる。1m程まで近づき、吉田の後ろを気にして南に飛び去る。 琵琶湖に着水。姿見えず。</p> <p>12:40～14:15 搜索中断。</p> <p>14:31 放鳥場所の少し南の斜面で発見。座って休んでいる。</p> <p>14:51 起きてこちらに少し近づき、反対の南側へ飛ぶ。草地に着地。見失う。</p> <p>15:12 着地した付近で強く受信</p> <p>16:12 受信弱まる。カルガモらしき2羽が北へ飛んでいく。(本鳥ではない)</p> <p>16:31 着地付近から湖沿岸に降りたところのクヌギの木の下で座っているところを発見。</p> <p>16:40～17:30 観察中断</p> <p>17:54 湖に入って行く。</p> <p>17:58 飼育者を見て(?)上がってきたか。</p> <p>18:00 飛んで東屋のところへ。飼育者を見ると寄ってくる。</p> <p>18:23 不安からか寄ってくる傾向があるので回収。 ケージに入れると餌(小松菜)をガツガツ食べる。夜間は4mケージへ。</p>
					<p>動画 <a href="https://youtu.be/oknDdqZZ6E4">https://youtu.be/oknDdqZZ6E4</a></p>



日齢	放鳥後	日付	曜日	BW (g)	備考
					<div data-bbox="439 240 1391 1177"> <p>Legend:                      ↓: 飛翔 (Flight)                      ↓: 歩行 (Walking)                      ↓: 遊泳 (Swimming)                      ☆: 受信 (Received signal)                      ☆: 目視 (Observed)</p> <p>Timeline:                      18:00 (目視)                      10:52 (歩行)                      10:22 放鳥 (Release)                      10:36 (歩行)                      10:32 (歩行)                      11:55 (歩行)                      14:51 (歩行)                      14:31 (歩行)                      15:12 (受信)                      6:31 (歩行)                      17:58 (歩行)                      17:54 (歩行)</p> <p>高島市立新旭 水鳥観察センター</p> <p>20 m</p> </div> <div data-bbox="1442 252 2096 691"> </div> <div data-bbox="1451 711 2087 1086"> </div>

日齢	放鳥後	日付	曜日	BW (g)	備考
68	2	8月27日	月	927	7:35 放鳥。出てきてすぐに水鳥観察センターの方へ飛んでいく。センター近くに着水。 12:40 放鳥場所の沖で潜った様子。電波が消えた。その後カーアンテナでは受信するが、八木では受信できない。 18:30 放鳥場所付近で回収。一回逃げて飛ぶが、水鳥観察センター駐車場上空を飛び、琵琶湖へでて、放鳥場所沖を通過して、船おろし場に降りたので、再度近づいて捕獲。
				動画	<a href="https://youtu.be/VEHJFt-Gsus">https://youtu.be/VEHJFt-Gsus</a>
69	3	8月28日	火	956	7:40 放鳥。体重が毎日増えていくので、日中に食べている可能性が高い。 18:15 他のカルガモと一緒に泳いで琵琶湖に出ていくのが見える。 もうヨシの中で見えないので、今日はそのままにしておく。
70	4	8月29日	水		7:30 放鳥場所の沖のヒシ繁茂場所で発見。受信なし。 12:20 放鳥場所の北20mの砂地で発見。 19:00 放鳥場所から陸地の北西約350mの空き地のところで寝ていた様子。 こちらにおどろき山側へ飛んでいく。 21:00頃 放鳥場所前の漁師の駐車場(砂利)の上で寝ている。 危険の可能性も考え捕獲を試みるが、放鳥場所前の琵琶湖へ飛んではいる。
71	5	8月30日	木		7:20 放鳥場所から北120mほどの広いところの水際で採餌。 23:00 朝の場所の水際で発見。
72	6	8月31日	金		8:30 放鳥場所で発見。数回チャレンジして捕獲し、マーカー等の影響を検証。問題は無さそう。 25:31 受信なし

日齢	放鳥後	日付	曜日	BW (g)	備考
73					<p>11:00 草地の中で佇んでいるところを発見。 羽繕いをして休息している様子。</p> <p>11:45 フクムラ仮設(株)[高島市新旭町饗庭1603]の資材置き場に迷い込んでいるところを確認。矢を撃ち込まれたカモと勘違いされて人だかりが・・・。 (発信機のアンテナを矢と誤認)</p> <p>11:54 敷地内へ入る許可を頂き捕獲。放鳥場所にて再放鳥。</p> <p>14:19 かばたリゾート(株)[高島市新旭町饗庭]付近の側溝で発見。 側溝を行ったり来たりしながら採餌。</p> <p>17:27 同じ側溝でザリガニを捕食。トンネル(暗渠の横断溝)を行ったり来たりしている様子。</p> <p>22:09 湖岸より5～10m付近を岸と平行に泳ぐ姿を確認。</p>
7		9月1日	土		    

日齢	放鳥後	日付	曜日	BW (g)	備考
74	8	9月2日	日		<p>10:20 昨日と同じ側溝を採餌しながら歩き回る姿を確認。 12:25 側溝付近で受信。受信状況からトンネル(暗渠の横断溝)の中にいると推定される。 22:30 船出場の沖15mほどのところで浮いて寝ているのを発見。</p>  
75	9	9月3日	月		<p>7:30 かばたリゾートから南10mほどの溝で水に浮いてエサを食べている。 昼、夜追跡できず。</p>
76	10	9月4日	火		<p>8:55 死亡を発見。首の根元からない状態。体は食べられている分はほとんどないが、羽がないところもある。ネコかアライグマか。いずれにしても、捕食者を検証する必要がある。</p>    

日齢	放鳥後	日付	曜日	BW (g)	備考
					<p>大学に検死を依頼。結果は以下論文参照。 <a href="#">Nana USHINE, Aki TANAKA, Shin-ichi HAYAMA, 2020. Investigation of causes of death in wildlife using veterinary molecular and wound analysis methods. The Journal of Veterinary Medical Science, 19-0394</a></p> <p>[要旨] 動物の死因調査は人間と動物との間で生じる様々な問題の原因の解明に貢献する。野生動物の死因は国や地域で原因が大きく異なることが考えられるため、国内での知見を集積する必要がある。今回はカルガモ(<i>Anas zonorhyncha</i>)を対象に、死因検査を実施した。アプローチは、まずインタビュー調査を行った上で、症例の外貌検査、解剖検査を実施した。本症例では、咬傷が確認されたが、咬傷の外貌からその動物種を推定することができなかったため、咬傷部位のスワブを遺伝子検査した。 これらの検査の結果、本症例は交通事故が主の死因として推定された。咬傷部位からはアライグマの遺伝子が検出された。発見時の個体の状態と咬傷の状態から、死因との直接的な関係性が低い、二次的な受傷であると考えられた。 本事例は、国内での動物の死因検査の発展の一助となると考えられる。</p>